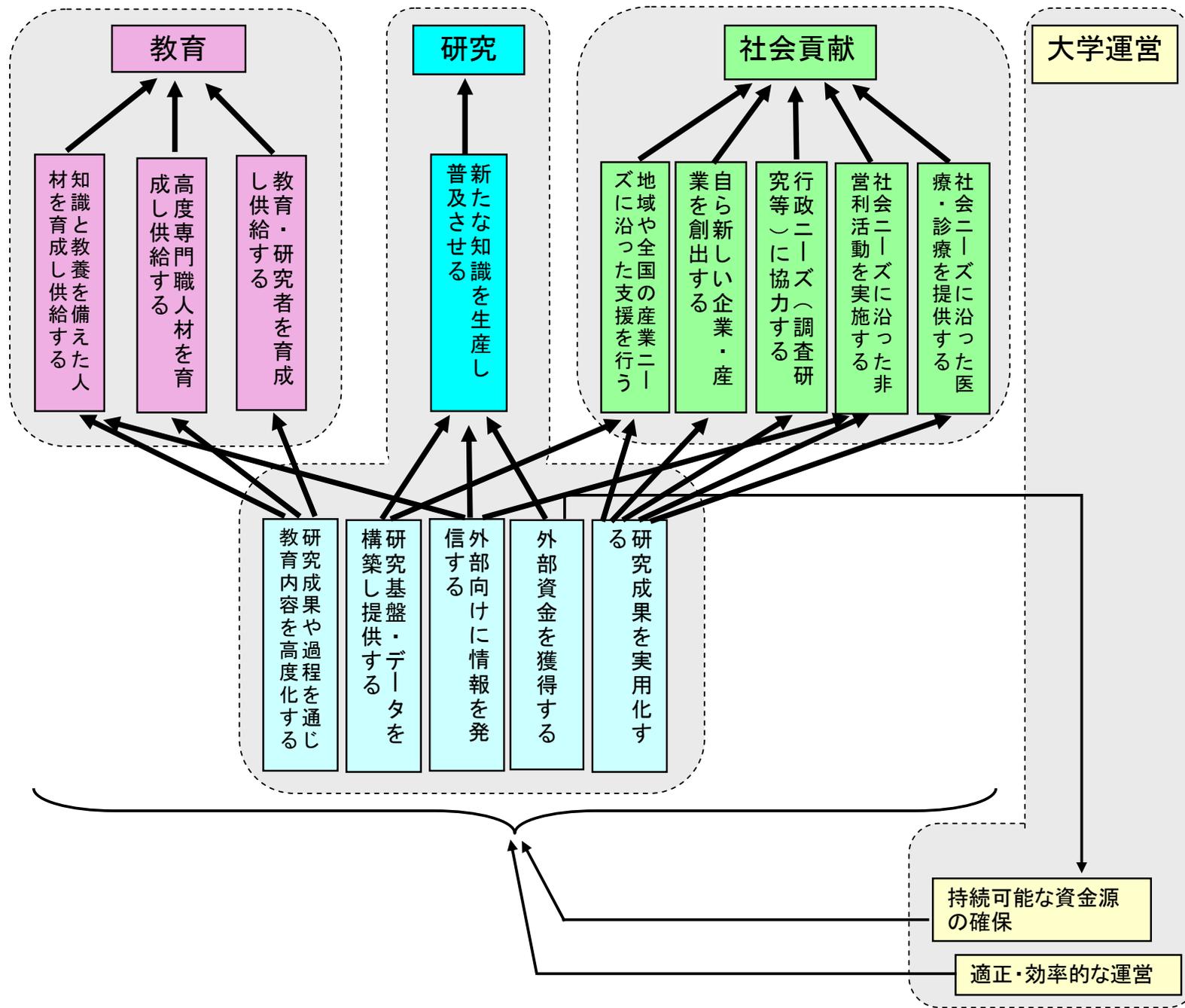


# パネルディスカッションの論点

---

# 論点1：手段と目的

- “研究活動の活性化”は、目的？手段？
- 大学の使命（教育・研究・社会貢献）との関係は？



# 大学の使命・機能の整理

## ○教育

- 専門知識を備えた人材を育成し社会に供給する
- 高度専門職人材(研究者、医師、弁護士等)を育成し供給する
- 教育・研究者を育成し供給する

## ○研究

- 新たな知識を生産し普及させる
  - (研究基盤・データ・インフラストラクチャを構築し提供する)
  - (研究成果や過程を通じて教育内容を高度化する)
  - (研究成果の産業界への移転や共同研究を通じて成果を実用化する)
  - (外部資金の獲得によって大学の収入に貢献する)
  - (メディア等への情報発信により説明責任を果たす)

## ○社会貢献

- 地域や全国の産業のニーズに沿った支援を行う
- 自ら新しい企業・産業を創出する
- 行政ニーズ(調査研究等)に協力する
- 社会ニーズに沿った非営利活動を実施する
- 社会ニーズに沿った医療・診療・福祉サービスを提供する

- 研究を活性化するだけでは達成できない目的（成果の波及により実現する）があるのではないか？
- 大学の使命追及の“マネジメント”に活かすためには、どのようなフィードバックが必要か？

## 論点2:ステークホルダーの視点

- 研究者(当人)、ステークホルダー(受益者)、第三者(非利害関係者)
- 研究開発の受益者は“研究者コミュニティ”？
  - 直接受益者 - 間接的受益者 - 間々接的受益者

# 研究評価の目的とステークホルダーの例

目的(他の目的を通じて・二次的目的)	利用されている指標(例)	ステークホルダー(例)
<b>教育</b> 専門知識と教養を備えた人材を育成し供給する 高度専門職人材(研究者、医師、弁護士等)を育成し供給する 教育・研究者を育成し供給する	指導した学生数、就職(内定)数 指導した国家試験合格者数 指導した進学者数、学位審査・取得数、ポスドク数	学生・卒業生、親(学費負担者)、民間企業採用担当者 公的・私的研究機関、専門職団体、医療機関 大学・高等教育機関の経営者(理事会・教授会)
<b>研究</b> 新たな知識を生産し普及させる (研究基盤・データ・インフラストラクチャを構築し提供する) (研究成果や過程を通じて教育内容を高度化する) (研究成果を実用化する) (外部資金を獲得する) (一般向けに情報を発信する)	論文数、インパクトファクター、学会賞 構築された研究基盤、データの量 在学生による授業評価、書籍(教科書)発行部数 特許出願、ライセンス数、技術相談数、共同研究数、受入研究者数 獲得した資金額 取り上げられた報道数、講演会数	研究者コミュニティ、学界 研究者コミュニティ、学界、共同研究者 (学内の)教育・研究者、学生 地域企業、全国(世界)的企業、VC、研究生 (自らの)大学経営者 メディア、一般市民
<b>社会貢献</b> 地域や全国の産業ニーズに沿った支援を行う 自ら新しい企業・産業を創出する 行政ニーズ(調査研究等)に協力する 社会ニーズに沿った非営利活動を実施する 社会ニーズに沿った医療・診療を提供する	特許出願、ライセンス数、技術相談数、共同研究数、受入研究者数 ベンチャー設立数、売上、VC資金額 審議会、研究会出席回数 関与した活動数とその成果 患者数、治癒率、病床利用率、平均在院日数、インシデント、医業収益	地域企業、全国(世界)的企業、研究生 市場、ベンチャーキャピタル 地方政府、中央政府、公的機関 NGO、非営利機関、一般市民、研究生 患者、医療機関
<b>大学運営</b> 持続可能な資金源の確保 適正・効率的な運営	財務諸表	教職員・学生 教職員・学生、一般市民(納税者)

- 自己評価の視点、第三者の視点に比べて、ステークホルダーの視点の考慮が不十分なのではないか？